会議録（1）

会議の名称	令和６年度第４回飯能市地域包括支援センター運営等協議会
開 催 日 時	令和７年２月１２日（水） 開会　午後１時３０分　　閉会　午後２時２０分
開 催 場 所	飯能市総合福祉センター　３階　会議室１
会 長 氏 名	大野　康
出 席 委 員	池田　徳幸　石川　友仁　打田　瑠美 大野　　康　大野　泰規　小田　晋平 黒見　　恵　齋藤　　明　角田　七重
欠 席 委 員	０人
傍聴者の数	０人
会 議 次 第	別紙のとおり
配 布 資 料	別紙のとおり
事　務　局	福祉部長　　五十川　美也子 介護福祉課長　　堀川　和義 主幹　　佐野　誠治　　主幹　　井上　実可 主幹　　栗島　祐介　　主任　　粕谷　健悟 主任　　三村　和也　　保健師　土井　幸恵 主事　　大松　春乃

会議録(2)

議 事 の 概 要 （ 経 過 ） ・ 決 定 事 項
1　開会 2　あいさつ 3　議事 （1）地域包括支援センターの活動状況等について （2）令和７年度飯能市地域包括支援センター運営方針(案)について （3）令和７年度協議会開催日程(案)について （4）その他 4　閉会

会議録（3）

発言者	発　言　内　容
介護福祉課主幹	（開会）
会長	（あいさつ） 「（１）地域包括支援センターの活動状況等について」を議事とする。
介護福祉課長	（資料１に基づき説明）
会長	資料１について質問・意見を伺いたい。
委員	電話件数、訪問件数について、その場で解決済みの案件なのか、継続している案件なのか内訳がわかるとよい。件数からでは実態が見えてこないと感じた。
介護福祉課長	（資料２に基づき説明）
会長	資料２について質問・意見を伺いたい。
委員	基幹型地域包括支援センターの報告の自立支援型地域ケア会議について、通所型サービスＣ利用後のフォローが重要と記載があるが、どのようなフォローが重要なのか知りたい。
介護福祉課保健師	通所型サービスＣ利用後の流れとしては、地域で開催しているげんきかややおもりの体操など通いの場に繋げていき、通所型サービスＣで終わるのではなく、継続的に運動できる環境を案内する形でフォローを行っている。
会長	「（２）令和７年度飯能市地域包括支援センター運営方針(案)について」を議事とする。
介護福祉課長	（資料３に基づき説明）
会長	議事（２）について質問・意見を伺いたい。 以前から問題となっている地域包括支援センター職員の業務負担の増加やケアマネジャーの人材問題についての記載があるとよいと思う。多くの事業を進めることは大切なことであるが、その

	一方職員はさらに必要になってくる。 　当事者の意見を伺いたい。
委員	現場の従事者は大変な状況であり、５年後、１０年後も現在と同じ動きをすることに対して不安がある。施設であれば外国人の雇用が可能だが、在宅サービスについては外国人を雇用することはできないため、将来に向け人材面については考えていく必要がある。また、待遇の面で介護職員については処遇改善加算が対象であるが、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所は対象外であることも人材が増えていかない要因と感じる。地域包括支援センターは委託事業であるため、人材問題については市と共に考えていきたい。また、居宅介護支援事業所で働きたいという人材が減少している点は問題視していく必要がある。
委員	時代の変貌や家庭環境の変化から困難ケースが増えてきており、専門職種にかかる負担は拭えない状況と感じている。現状、ケアマネジャーの募集をしても応募がない状況である。人材を増やしていくためにもケアマネジャーや地域包括支援センターの３職種の魅力を伝えていきたいと思う。
委員	委託されている事業については、粛々と進めていきたい。実状として人材不足は続いており、求人募集をしているが応募がない状況である。生産性を高め、効率性を意識した働き方を進めていきたい。
委員	教育現場において、多職種連携や地域医療を意識した学校が増えてきているように感じている。経験の浅い職員が地域包括支援センターに就職することが増え、新人教育を進めていきたいところだが、時間がなく行えていない状況である。市と協力し、人材育成にも力を入れていきたい。
委員	介護保険制度や相談できる環境がある点においては、介護が必要となった時に安心して生活を送っていけると感じている。
委員	当法人でもケアマネジャーの資格を持っている職員はいるが、居宅介護支援事業所のケアマネジャーは避ける傾向にある。ケアマネジャーの実地研修の受け入れを開始しているが、とりあえず資格を取るという人が多い印象である。ケアマネジャーの仕事量や報酬面を考慮すると、精神的に追い込まれる職員も多くいると感じている。

委員	自身の経験を通じて、本人が在宅医療を望んでいても山間部など環境の問題から希望するサービスが使えず、在宅医療を諦めざるを得ない問題が生じることを実感した。
副会長	問題を明文化しておくことは重要と感じている。仕事量が多く疲弊していたり、法人が費用を持ち出している状況が改善されないと問題解決には繋がらないと思う。介護保険制度だけでは補えない部分もあるため、市としてどこまで踏み出せるか考えていくことが大切である。また、職場環境を変えていくことも必要と感じている。
会長	地域包括支援センターの職員が地域資源の事業者と繋がりを持ったり、生活支援コーディネーターが積極的に介護事業者と連携を持つなどネットワークづくりができていると思う。また、小・中学生向けに認知症サポーター養成講座を開催することは、若い世代に介護職の存在を周知することができる良い機会と感じている。 「（３）令和７年度協議会開催日程(案)について」を議事とする。
介護福祉課長	（資料（４）に基づき説明）
会長	「（４）その他」を議事とする。
介護福祉課主幹	地域包括支援センター事業評価の集計結果については、次回の協議会で報告する。
副会長	（あいさつ）
介護福祉課主幹	次回、５月２１日（水）１３時３０分より総合福祉センター会議室１で開催予定。

議事のてん末・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。

令和　　年　　月　　日

議長の署名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿